

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100926		
法人名	株式会社 幸友会		
事業所名	グループホーム しあわせ		
所在地	〒038-2705 青森県西津軽郡鮎ヶ沢町大字南浮田町字金沢街道ノ沢55-9		
自己評価作成日	平成26年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームの理念である「笑顔がつくるしあわせ家族」を基準とし、利用者と職員が共に生活していく中で、利用者が安心して落ち着いた日々を過ごし、毎日笑顔が見られるよう、職員一同日々努力しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームは森を背に、住宅街に位置し、四季折々の自然の移ろいと住民の暮らしが身近に感じられる環境にある。宅地造成が進められている地域で、核家族の構成世帯が多く、開設当初は、グループホームの受け入れに苦慮したものの、毎年、秋祭りを開催し、各戸を訪問して参加を呼び掛けたところ、徐々に理解も深まり、現在では模擬店の協力にも積極的で参加者も多く、地域の方々からも待ち望まれる催し物になっている。自宅で獲れた野菜や山菜等の差し入れを頂く等、相互交流も図られている。「笑顔」「しあわせ」「家族」をコンセプトに理念を掲げ、職員は会話の引出しに努め、明るく活気溢れる環境の中、笑い声が響き合うグループホームとなっている。生活歴の把握に力を入れ、個々の望む生活の在り方を模索しながら、心身の安定を支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については全職員が周知しています。簡単な理念ではありますが、利用者の方たちに対し自分の家族と同様に接したり、会話することを願いモットーとし理念としました。	開設時、どのようなグループホームを目指すのか職員で話し合い、明るく笑い声の絶えない事業所を目指し「笑顔がつくる幸せ家族」という理念を掲げている。グループホーム内は会話も飛び交い、表情も生きいきとしている。	地域との関係は良好で、地域密着型サービスの役割を担っているも、理念へ反映されていない。今後の方向性も含め、地域でグループホームが目指す方向を明確にした理念を再構築される事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は外に散歩に出かけ町内の皆さんとあいさつしたり、会話をするようにしています。又、9月に当ホームで秋祭りを行っています。町内の皆さんを招待し交流を深めています。	町内会に入り、清掃等の活動や総会に参加し、地域住民としての関係を維持している。外出の際は時候の挨拶を交わし、毎年の秋祭りへ参加を呼び掛け、模擬店への協力も得られ好評を博している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症について勉強会を行っています。又、参加された皆さんに私たちが相談できる範囲内であればいつでも相談を受ける体制があることを伝えていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の日々の取り組みを報告し、参加された皆さんより意見をいただき参考になることは取り入れ、又改善すべき点があれば改善しサービスの向上に努めています。	参加メンバーは概ね固定しており、事業所側から現況や、外部評価の結果、又、予定等について報告し、内容によっては地域への参加も呼び掛けている。参加者から介護の相談を受け回答したり、活発に意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただき、事業所の取り組み等を理解いただいています。又、福祉制度など不明な点は積極的に連絡を図り指示やアドバイスを受けています。	制度改正時の事務処理や疑問点は都度確認し、調べた上で正確な回答を頂いている。先般、老衰を理由に急変時も、救急搬送を控えるよう公立病院から指示された事案あり、臍に落ちない為、町側に確認し回答待ちの状況である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを活用し勉強会を行うことにより、身体拘束の対象となる行為等を職員一同周知するよう努めています。又、身体拘束だけではなく行動を妨げることなく利用者が精神的に安らげる関わりをもてるよう話し合っています。	内部研修で拘束に該当する行為、及び弊害について学習、参加者は全員報告書を記入し理解を深め、拘束は行われていない。玄関の施錠は行わず、職員が目出入りの状況、安全を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを活用し勉強会を行っています。職員一丸となり、虐待の見逃しが無いようお互いに注意しあい改善して行けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、日常生活支援事業を利用されていた利用者がおりましたので、必要性を職員が周知していると思います。又、内部研修で勉強会を行い改めて必要性等を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族の方が不安の無いよう、十分に説明を行っています。疑問点や不安なことがあればいつでも相談できる体制を整え、理解、納得できるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の窓口を設置いつでも要望や苦情を受ける体制を整えています。又、月一回家族に電話し要望等が無いかを尋ね、その都度意見を反映できるようにしています。	毎月の利用料の連絡時に、日常生活の報告や受診状況も伝え、要望の確認も行い、個別支援や事業に反映させている。入居契約時に、行政や国保連の意見受け付け窓口を紹介している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け話し合い、検討しそれを運営に反映させるよう努めています。	隔月で行われているミーティングで意見を求め、改善すべき点は早急に取り組み、管理者は日頃から意見を出し易い環境作りに努めている。冬期間の除雪対策で遅番の勤務時間を変更し業務改善された経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の勤務状況や努力を把握し、各自が向上心を持ち、やりがいのある職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアに役立てるよう、必要に応じた研修に参加できるよう取り組んでいます。又、ホーム内の研修も取り入れ、職員のケアの向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームの連絡会が3ヶ月に1回のペースで行われるため順番に職員を参加させ交流する機会を作っています。参加した職員は連絡会にて学んだことを記入しそれを全職員が閲覧しサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にきちんとアセスメントを行い、本人及び家族のニーズを傾聴しその実現に向け努力し、安心して落ち着いた生活が、送れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話や話を傾聴し、困っていることや不安、要望を把握し、少しでも家族の不安が減少できるよう努めています。利用者のみならず家族も同様なんでも話し合える関係づくりを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	第一に何を必要としているのかを見極め、他のサービス利用も考慮しながら、本人及び家族にどんな支援や対応が必要なのか見極める努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にうたっている通り笑顔が作る家族を目指し、目上の利用者に尊敬の念を持ち楽しい事も、悲しい事も皆で分かち合い生活できる関係づくりを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の生活状況や体調を報告書にまとめ、家族に渡しています。家族と共に共有し本人を支えていく関係を築いていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間、曜日に関係なく、いつでも家族や友人が面会できるようにしています。又、行きつけの理美容院や商店には、本人の体調が許す限り外出できるよう支援しています。	買い物や外出希望には個別で対応しており、飲酒歴の長い利用者が酒の購入を希望した時は、酒屋へ出掛け、陳列された物を見る事で満足されている。近所付き合いしていた友人の面会も多く、継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事時の席順を変更したり、気の合うものが会話できる場を作ったり、一人ひとりが孤立することなく生活できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、今まで築いてきた関係を大切に、必要に応じ本人家族の相談に答え、今後も支援できることは継続するよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のニーズを把握し、意思の伝達が困難な場合でも、思いや希望が引き出せるよう努め、利用者本位の生活が送れるよう支援しています。	家族からの聞き取りと、個々の生活歴を掘り下げ、その生活の中から思いを汲み取り、日々の関わりで時間を共有しながら一人ひとりの声に耳を傾け、意向を把握するよう対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプランやアセスメントを活用したり、関係機関等に情報提供お願いして、これまでの暮らしを把握し、馴染みの暮らし方が途切れないように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンや、心身状態及び本人の持っている力等を理解し、それを職員一同が周知し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報を得たり、家族、関係職員が参加し、それぞれの意見やアイデアを反映させ、本人がより良く暮らせ現状に即した介護計画を作成するよう心がけています。	家族の要望と担当者の意見を取り入れ、計画作成担当者が立案したプランを基に、担当者会議を行い修正・加筆し実行に移している。評価も行われているが、書類に不備があり、統一性に欠ける。	担当者会議の開催が不完全である為、開催のための工夫が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況やケアの実践等を個別に記録し、職員間で情報を共有しています。実践結果の見直しを図り利用者本位の介護計画の作成に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないことなく、入浴日以外に入浴を取り入れたり、緊急時の受診を支援したり、その時々生まれるニーズや状況に応じ、サービスが提供できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段より、地域住民や町内会と馴染みの関係作りをし、地域ぐるみで安全で豊かな暮らしが出来るよう努力しています。又、職員全員が地域資源を把握し、それを活用できるか考慮しながら頑張っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援はもちろんの事、救急時には電話連絡を行い指示を仰いだりできる関係作りに努め、いつでも連携できる体制を整えています。	入居前の主治医を継続支援し、通院はグループホームの車輛を使用し職員が付き添い行っている。公立病院の待ち時間対応として、診察券を早めに出し、利用者の負担軽減に努めている。主治医との連携も良好に保たれている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと、医療連携を結んでいるので、利用者の体調の変化や疑問についていつでも相談し、適切な指示や処置が行えるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院されたときは、介護情報や生活状況を提示し、情報交換を行っています。又、普段より地域連携室を訪問したり、連絡を取り合うなどして関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設では看取りを行わない方針であることを説明しています。訪看及び医師と連携を図りながら、早期にその利用者に向けた対応を行う体制を整えています。しかし、利用者の高齢化や重度化により今後看取りについて検討したほうが良いのではと考慮しています。	過去に対応した事例はあるが、他利用者が敏感になり不安が大きくなった事と、医療のバックアップが確保されていない現状では、終末期の対応は難しいと判断している。今後、家族から強く希望された場合や、緊急時の体制について再考の方向である。	グループホームの方針が明確であることは、利用の安心につながることから、早い時期に結論を出せるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、利用者の急変や事故発生時に対応できるよう備えています。訪看の看護師よりいつでも適切な対応や指示を仰げるよう体制作りを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成しています。昼夜問わず利用者が避難できるよう年2回訓練を実施しています。町内会の防災組織に参加しており、緊急時に要請していただける体制作りを整えています。	緊急時の通報はホットラインで組織され、夜間の想定も含め、年2回避難訓練を行っている。周辺住民にも有事の際の協力を求めた了解を得ており、運営推進会議の中でも訓練の開催や避難・誘導の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者という立場以前に、私たちの良き先輩であるという尊敬の意を忘れないことを心がけ、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない声掛けを行い、受容的立場で接するよう取り生んでいます。	会話や対応姿勢は、個々の思いを優先し、誇りを傷つけないようなさり気ない声掛け等の配慮が伺える。親密感に溢れ、グループホーム内の雰囲気も明るく、利用者も生きいきとしている。	親密さから、ちゃん付けで呼び掛けているが、人生の先輩として敬い、尊厳を具現化する観点からは相応しくないと判断される。適切な呼称の再考と実践に期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりが選択し、自己決定ができる場面作りを行い、その思いや希望が叶うよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を心がけています。レクリエーション等は無理強いすることなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をその人らしく過ごせるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性や希望を尊重し、おしゃれが出来るよう支援しています。洋服の汚れや髪が伸びたときは、さりげなく声掛けを行い清潔保持できるよう心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間の献立を一緒に作成し、すべての利用者が好みのものが食べられるよう心がけています。又、毎日のメニューをホワイトボードに書き入れたり、簡単な食事の準備を一緒にしながら、食への関心を持てるよう支援しています。	利用者に食べたい物を確認し、献立を作成している。カロリーは、過去に、栄養士より、糖分と塩分を減らすよう指導された経緯あり、実施している。下拵えや茶碗・テーブル拭き等率先して行い、生きいきと活動している、	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量及び水分量を毎日チェックし記入しています。一人ひとりの好みを把握しながら状態や持つ力に応じ食物の形態を工夫したり、バランスの取れた食事を提供できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や、その人の力に応じた口腔ケアを行っています。食前後には、うがいを行うよう心がけ清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合った支援を行っています。排泄の失敗があっても自尊心を傷つけることなく自立に向け排泄できるよう支援しています。	トイレでの排泄を目指し、訴えや動きを見て定時・随時に誘導している。個別の排泄チェック表で排泄間隔を把握、オムツからリハビリパンツに改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前ラジオ体操を、午後はリハビリ体操を行ったりし、運動への働きかけを行い、腸の蠕動を促し便秘予防に努めています。又、食事面では食物繊維の多い食材を取り入れたりしながら工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一応、入浴の曜日は決まっていますが受診前日や汗をかいた等、利用者の希望があればいつでも入浴できる体制を整えています。	基本は週2回実施し、汗をかいたり希望があった時はシャワー浴で対応している。着脱と洗身の2名のスタッフで支援し、ADL(日常生活動作)の維持・向上の為、自分で出来る部分は自力で行ってもらい、見守りを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、その時々状況に応じて、休息を取り入れたりしています。夜間は気持ちよく眠れるよう、空調や照明に配慮し良眠できる環境作りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に内服薬、成分表を作成し、目的や副作用等職員が理解でき、それを周知しています。服薬は飲み忘れがないようにその都度一人一人に手渡しし、服用されたか確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好品や楽しみごとを把握し、又やれる力を生かし、その人ができる役割を見出すことで自信が持て張り合いのある生活が送れるのではないかと思います支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を聞き入れ個別に外出したり、その時々状況に合わせて支援しています。普段は、いけないような場所でも利用者の体調がゆるす限り全員で外出できる日を設けたりしています。	野菜や山菜の差し入れ等、近所の方々は自由に出入りし、天気の良い日は周辺を散歩し、おやつ差し入れを頂く事もある。個別の希望は出来るだけその都度対応するよう努めており、季節毎の遠出の行事は年間計画し実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なるべく金銭管理が出来る利用者には自分で管理していただいています。又、個別支援にて、買い物に出かける際は本人に財布を渡し、自分で使えるよう取り組んでいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間に関係なく電話の取次ぎを行っています。手紙や年賀状など代筆を行ったりしながら、家族や大切な人との繋がりが途切れないよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾りつけをしたり、その季節でなければ味わえない食事を工夫して提供することにより、少しでも季節を感じてもらえるよう支援しています。又、空調管理等に配慮し利用者が心地よく過ごせるよう支援しています。	流し台は対面式となっており、利用者の動きが良く観察できる環境で事故防止の効果がある。季節の飾りつけを利用者と共に行い、紅葉やハロウィン等、視覚で季節が確認出来る空間であり、温湿度計を設置し快適な空調が管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを設置しており、テレビを見たり新聞を見て過ごしています。又、気の合った利用者同士が仲良く談話できる場となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた、食器や布団等馴染みの物をそのまま使用し、くつろいで生活できるよう支援しています。又、夫婦入所されている方は本人や家族の希望を取り入れ、寝室と居間を分け自宅で生活されていた時に近い環境作りを行っています。	電化製品の持ち込みや家族の写真、切り紙細工等飾り、個々の趣味嗜好が良くわかる居室作りとなっている。位牌を置き、毎朝お経を上げる方もおり、落ち着いた過ごせる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を理解し、できるだけ自立した生活が送れるよう支援しています。手すりの設置はもちろんの事、床材はクッションフロアを使用したり安全な環境作りを行っています。		